

総合開館 30 周年記念 作家の現在 これまでとこれから

TOP 30th Anniversary State of the Artist: So Far and From Now On

2025 年 10 月 15 日（水）–2026 年 1 月 25 日（日） 2 階展示室

石内都

Ishiuchi Miyako

志賀理江子

Shiga Lieko

金村修

Kanemura Osamu

藤岡亜弥

Fujioka Aya

川田喜久治

Kawada Kikuji



上) 石内都《ひろしま #145 donor: Sachiko, M.》2025 年
発色現像方式印画 作家蔵

©Ishiuchi Miyako, courtesy of The Third Gallery Aya

下) 藤岡亜弥《川はゆく》より 2013–2017 年
発色現像方式印画 東京都写真美術館蔵

5 名の作家の現在とこれまでの作品を紹介。これからの写真・映像表現の可能性を探る

このたび東京都写真美術館は、「総合開館 30 周年記念 作家の現在 これまでとこれから」展を開催します。

当館は、2025 年に総合開館 30 周年を迎えました。1995 年の総合開館から 30 年の間にも様々な表現が誕生し、社会の変化とも呼応しながら、写真表現の歴史は途切れることなく更新されています。

「作家の現在 これまでとこれから」と題した本展では、国内外で活躍が目覚ましい作家の現在の活動を、これまで当館に収蔵された作品等と合わせて紹介します。進行形の作家活動に触れる機会を通して、作品理解を深めるとともに、これからの表現の可能性を探ります。

本展のみどころ

日本を代表する写真家のグループ展。作家のこれまでの作品に加え、新作・近作もあわせて紹介

日本を代表する写真家、石内都、志賀理江子、金村修、藤岡亜弥、川田喜久治の作品を紹介。国際的に活躍する、世代の異なる5名の作家の作品が一堂に集結します。

本展では、当館の収蔵作品を軸に、作家のこれまでの歩みをたどりつつ、新作・近作も紹介します。進行中の作家活動に触れる機会を通して、作品理解を深めるとともに、今後の表現の可能性を探ります。

時代の節目と写真表現

戦後80年、昭和100年という節目の年に、写真表現を通して何が見えてくるのか。

被爆者の遺品を撮影した石内都の〈ひろしま〉、現在の広島を撮りながら「ヒロシマ」を見つめた藤岡亜弥の〈川はゆく〉、昭和の終わりの天体現象をひとつの題材とした川田喜久治の〈ラスト・コスモロジー〉など、それぞれの視点を通して、その問いに迫ります。

出品作品 約100点

作家プロフィール ※出品作家、展示順

石内都 Ishiuchi Miyako (1947-)

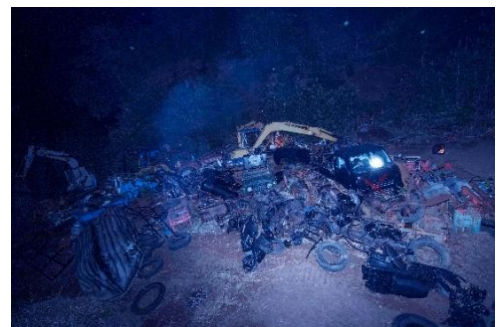
群馬県生まれ。神奈川県横須賀市で育つ。2005年、母親の遺品を写した〈Mother's〉で第51回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表作家に選出。2007年には被爆者の遺品を撮影した〈ひろしま〉を発表し、現在も継続している。2006年、東京都写真美術館にて「石内都: mother's」を開催。2014年にはハッセルブラッド国際写真賞を受賞。2027年、ヨーロッパ写真館（MEP）個展予定。



[1] 石内都《ひろしま #145 donor: Sachiko, M.》2025年 発色現像方式印画 作家蔵
©Ishiuchi Miyako, courtesy of The Third Gallery Aya

志賀理江子 Shiga Lieko (1980-)

愛知県生まれ。『Lilly』『CANARY』で第33回（2007年度）木村伊兵衛写真賞を受賞。2008年より宮城県在住。2011年、東日本大震災で被災しながらも制作を続け、翌年「螺旋海岸」（せんだいメディアテーク）を開催。「ニュー・フォトグラフィー2015」（ニューヨーク近代美術館）、「ヒューマン・スプリング」（東京都写真美術館）など、展覧会多数。2025年は「ジャム・セッション 石橋財団コレクション×山城知佳子×志賀理江子 漂着」展（アーティゾン美術館）、グループ展「プラカードのために」（国立国際美術館）開催予定。



[2] 志賀理江子、参考図版
Photo: artist, ©Lieko Shiga, Courtesy of the artist

金村修 Kanemura Osamu (1964－)

東京都生まれ。初期より都市の風景をモノクロで撮影。1996年にはニューヨーク近代美術館で開催された「ニュー・フォトグラフィー12」展に出品するなど、国内外で高い評価を得る。2000年、第19回土門拳賞受賞。2014年、第39回伊奈信男賞受賞。



〔3〕 金村修《Untitled》〈本日の日本〉より 1993年 ゼラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵

藤岡亜弥 Fujioka Aya (1972－)

広島県生まれ。2007年、文化庁新進芸術家海外研修制度でニューヨークに滞在。のちに広島市内に転居し、日常を通して「ヒロシマ」を見つめ撮影した『川はゆく』（赤々舎）などにより、第43回（2017年度）木村伊兵衛写真賞受賞。

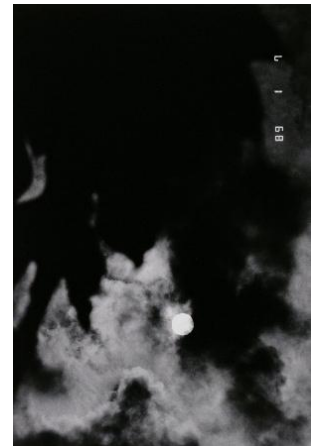


〔4〕 藤岡亜弥〈川はゆく〉より 2013-2017年 発色現像方式印画 東京都写真美術館蔵

川田喜久治 Kawada Kikuji (1933－)

茨城県生まれ。1959年、写真家によるセルフ・エージェンシー「VIVO」を共同設立。1965年、戦争の傷跡や記憶をたどる『地図』（美術出版社）を発表。「ニュー・ジャパニーズ・フォトグラフィー」展（ニューヨーク近代美術館、1974年）や「川田喜久治展 世界劇場」（東京都写真美術館、2003年）、「アルル国際写真祭」（2025年）をはじめ、国内外で多数の展覧会に参加。2004年、芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

〔5〕 川田喜久治《昭和最後の太陽、昭和64年1月7日》〈ラスト・コスモロジー〉より 1989年
ゼラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵



関連イベント

アーティスト・トーク

1月11日（日）14:00-16:00

登壇者：志賀理江子（出品作家）

会場：東京都写真美術館 1階ホール 定員：190名 参加費：無料

*当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します。

図書室夜話

出品作家が、自身の作家活動に影響を与えた図書や写真集、お気に入りの本等について語る特別プログラムです。

① 12月4日(木) 18:30-19:50 講師：藤岡亜弥(出品作家)

② 12月12日(金) 18:30-19:50 講師：石内都(出品作家)

会場：東京都写真美術館 4階図書室 定員：各回7名(事前申込制、申込多数の場合は抽選)

参加費：無料

* 申込方法等の詳細は当館ウェブサイトでご確認ください。

出品作家による映像作品の上映+アフタートーク

1月10日(土) 14:00-17:00

登壇者：金村修(出品作家) × 倉石信乃(明治大学教授、近現代美術史・写真史)

会場：東京都写真美術館 1階ホール 定員：190名 参加費：無料

* 当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します。

担当学芸員によるギャラリートーク

① 10月24日(金) 14:00～

② 11月14日(金) 14:00～(手話通訳付き)

③ 12月5日(金) 14:00～(手話通訳付き)

④ 1月9日(金) 14:00～(手話通訳付き)

* 当日有効の本展チケット、展覧会無料対象者の方は各種証明書等をお持ちのうえ2階展示室入口にお集まりください。

開催概要

展覧会名 | (和) 総合開館 30 周年記念 作家の現在 これまでとこれから

(英) TOP 30th Anniversary State of the Artist: So Far and From Now On

会 期 | 2025 年 10 月 15 日(水) ～ 2026 年 1 月 25 日(日)

主 催 | 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協 力 | 株式会社カラーサイエンスラボ、株式会社写真弘社、有限会社フォトグラファーズ・ラボラトリー、PGI

会 場 | 東京都写真美術館 2階展示室(東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内)

電 話 | 03-3280-0099 WEB | www.topmuseum.jp

開館時間 | 10:00-18:00(木・金曜日は 20:00 まで。1月2日は 18:00 まで) ※入館は閉館 30 分前まで

休館日 | 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日は休館)、年末年始(12月29日～1月1日)

観覧料 | 一般 700(560)、学生 560(440) 円、高校生・65 歳以上 350(280) 円

※ () は有料入場者 20 名以上の団体、当館映画鑑賞券提示者、各種カード等会員割引料金

※中学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2 名まで) は無料

※第3水曜日は 65 歳以上無料

※1月2日(金)、3日(土) および 21 日(水) [開館記念日] は無料

※オンラインで日時指定チケットを購入いただけます。

事業内容は諸般の事情により変更する場合があります。

お問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。

掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

* オンライン媒体への図版掲載は作品保護の観点から、長辺 800～1,000 ピクセル以下をご利用ください。

* 図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

企画 丹羽晴美（東京都写真美術館 事業企画課長 学芸員）、伊藤貴弘（東京都写真美術館 学芸員）

広報担当 坂田、池田、上田 press-info@topmuseum.jp

電話 03-3280-0034 / FAX 03-3280-0033 / www.topmuseum.jp